

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	社会福祉法人ライン工房 共同生活援助事業所れん		
開催日時	令和8年3月10日(火) 10:00~11:40		
開催場所	グループホーム食堂ホール		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	3	管理者、副管理者、サービス管理責任者 民生委員、グループホーム近隣住民 介護保険・障害者支援事業所
	入居者	1	
	入居者ご家族	1	
	地域の関係者	2	
	福祉に知見を有する方	1	
経営に知見を有する方 市町村担当職員			
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 説明（会議目的、法人概要、グループホーム事業概要等）※スライドにより説明 4. 施設見学 5. 質疑・意見交換 6. 閉会 		
協議内容・意見等	<p>～障害のある方もない方も、共に安心して暮らせる地域づくりを目指して～</p> <p>当グループホームにて「地域連携推進会議」を開催しました。この会議は、運営状況の報告だけでなく、地域住民の皆様やご家族との対話を通じて、相互理解を深めることを目的としています。今回の会議で話し合われた概要は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「自分らしく生きる」ための制度の課題 障害福祉サービスから高齢介護サービスへの移行に伴う課題について情報共有されました。 <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢によるサービスの壁：障害福祉では、40歳や65歳という節目で介護保険サービスへの移行を求められることがあります。しかし、20～40代の障害者が80～90代の多い高齢者施設へ移った場合、「世代や活気の差から、本人が楽しめない」という切実な悩みがあることが共有されました。 ● 地域差と個別対応：制度の運用には自治体ごとに差があり、画一的な移行ではなく、一人ひとりの状況に合わせた柔軟な対応が必要であるという認識を深めました。 2. 地域社会とのつながりと「顔の見える」関係づくり ホームが地域の一員としてどうあるべきか、具体的な視点から意見が出されました。 <ul style="list-style-type: none"> ● 看板設置と連絡体制：多くのグループホームでは、近隣への配慮やプライバシーから看板を出さないことが一般的です。しかしご家族からは、「看板があれば、何かあった時に警察ではなくホームに直接連絡してもらえるのではないか」というご意見もいただきました。 ● 「見えない障害」への理解：知的障害や自閉症は外見で判断しにくいいため、予期せぬ行動が周囲の不安を招き、警察への通報につながってしまうことがあります。ご家族からは警察が介入する前の「ワンクッション」として、住民の皆様が気軽にホームへ声をかけてくださる関係性が構築されるとよいという意見が出されました。 		

3. 次世代と共に育む「地域の目」

これからの地域を担う子供たちや、住民の皆様との交流について前向きな提案がありました。

- 地域との交流：近隣の小学校（託麻東小学校など）では、4年生が授業の一環として利用者と交流する取り組みが行われています。こうした体験を通じて、「知らないことによる偏見」をなくしていくことの重要性について意見が出されました。
- 感性を伝える展示：家族から、我が子が撮影した写真などをホームの外壁や掲示板に展示し、「あの子はこういう活動をしているんだ」と地域住民へ理解してもらうような案も出されました。

4. 地域の中で「共に学ぶ」重要性

私たちは、トラブルを恐れて利用者を社会から遠ざけるのではなく、地域の中で共に生きていくことを大切にしています。

- 経験を通じた自立：言葉での理解が難しい利用者にとって、地域に出て様々な経験をすること自体が、社会のルールを学ぶ大切な場であるとの説明を受け、ご家族からも、「悪いことは教えながらも、地域に出し続けたい」という強い意志が語られました。
- 家族のネットワーク：入居者のご家族同士も、警察への対応経験などを分かち合い、励まし合って活動しています。

5 今後の展望

本年度より開始した、ホームを会場にした啓発活動（販売会）を継続実施し、ホームからの情報発信（ポスティングなど）を通じ、「じわじわと」地域に溶け込んでいくことを目指します。

この会議は今後も継続し、地域の皆様の声を直接伺う貴重な場として大切に運営してまいります。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

